

## 参考資料 19 生育収量調査法（水稻）

調査項目	調査基準および要領	調査方法	調査数	測定単位	調査単位	
					調査	平均
発芽始	・初めて発芽を見た日 発芽とは、幼芽または、幼根がでたもの	観察	—	月日	1	1
発芽期	・播種粒数の40～50%が発芽した日	観察	—	月日	1	1
発芽揃	・播種粒数の80%が発芽した日	観察	—	月日	1	1
出芽調査	・出芽とは、幼芽が地表に出たもの ・出芽調査も発芽調査と同様の基準で行う ただし、出芽始は、播種粒数の10%程度が出芽した日	観察	—	月日	1	1
草丈	・苗では根際より最長葉の先端までの長さ 立毛調査の場合は地際よりとする ・本田では最長茎の地際より最長葉の先端までの長さ、 ただし、抜き取り調査の場合は、根際よりとする	測定	30 個体	cm	0.1	0.1
		測定	20～40 株	cm	0.5	0.1
葉数	・主稈について最上位葉の葉身が前葉（ $n-1$ ）の葉鞘から抽出した長さ（ $m$ ）とこの $n$ 葉が全長に達した後の葉身長（ $M$ ）を測定し、次式より計算する $(n-1) + m/M$	測定	30 個体 (苗) 10 個体(本田)	葉	0.1	0.1
葉齢指数	・葉数（調査時の主稈）／主稈総葉数×100 ・主稈総葉数は不完全葉を含めた葉数とする ・主に幼穂発育過程の推定の際参考とする	算出	—	%	1	1
茎数	・主稈を含めた総茎数 ・分けつは分けつ節の葉鞘より分けつ芽の先端が現れたもので、葉鞘の側方より現れたものを含む	測定	20～40 株	本	1	0.1
苗の乾物重	・根部と根を除いた茎葉部分の乾物重 ・生体重を測定した材料を通風乾燥機に入れ充分通風乾燥後（80℃、24時間）測定する	測定	100 個体	g	0.01	0.01
最高分けつ期	・茎数が最高となった日 ・最高分けつ期を平年値から予測し、それを中心に前後数回の補助調査を行い、分けつ終止期後、逆算して決める	算出	—	月日	1	1
有効分けつ決定期	・茎数がその年の穂数と同一になった日 ・有効分けつ決定期を予測し、それを中心に前後数回の補助調査を行い、穂数決定後、逆算して決める	算出	—	月日	1	1
幼穂形成始期	・各株から長茎5本を抜取って調査を行いその80%以上の茎の幼穂が1mmに達した日 ・出穂前20～25日、葉齢指数85%位 ・平年の幼穂形成始期を中心に前後数回調査する	測定 検鏡	10 個体	月日	1	1
幼穂伸長期間(穂孕期)	・幼穂形成始期から出穂期前日までの期間	算出	—	月日 ～ 月日	1	1
出穂始	・個体単位の場合は、初めて出穂を見た日 ・集団の場合は、有効茎数の10～20%出穂した日 ・出穂とは、止葉の葉鞘から穂の先端（芒は含まない）が現れること。穂首まで抽出したものを出穂と誤解しないようにする。	観察	—	月日	1	1



調査項目	調査基準および要領	調査方法	調査数	測定単位	調査単位	
					調査	平均
出穂期	・有効茎数の40～50%が出穂した日	観察	—	月日	1	1
穂揃期	・有効茎数の80～90%が出穂した日	観察	—	月日	1	1
穂揃期間	・出穂始の翌日より穂揃期までの日数	算出	—	日	1	1
成熟期 (完熟期)	・全穂数の80%以上の穂首が黄化した日 ・穂首の黄化しないものは、籾の黄化が全粒数の80～90%以上のもの	観察	—	月日	1	1
成熟日数 (結実日数)	・出穂期の翌日より成熟期までの日数	算出	—	日	1	1
稈長	・地際から穂首までの長さで、一般的には最長稈長とする。抜取り調査の場合は、根際からとし注記をつける	測定	20～40株	cm	0.5	1
穂長	・穂首から穂先（芒は含まない）までの長さで一般的には、最長稈の穂長とする	測定	20～40株	cm	0.1	0.1
穂数	・遅れ穂や被害穂を含まない穂数 なお、遅れ穂とは、最長稈に対し稈長が50%以下の穂をいう。	測定	20～40株	本/m <sup>2</sup>	1	0.1
沈下粒数 歩合	・平均穂数に近い5株を抜取り、株毎に脱穀し清水にて沈下籾を計測し全籾数の比で表す	測定	5株	%	0.1	0.1
登熟歩合	・平均穂数に近い株を抜取り、脱穀、籾摺りおよびグレーダー処理後に残った玄米数と全籾数の比で表す	測定	10株	%	0.1	0.1
全重	・地際より一定（1～2cm）の高さに、一定面積を刈取った後、十分に風乾した地上部全重量	測定	3m <sup>2</sup> ずつ 5ヶ所	kg	0.1	0.1
わら重	・籾重を除いた地上部茎葉乾重	測定	15 m <sup>2</sup>	kg	0.1	0.1
精籾重	・しいな重を除いた籾重、屑米を含んでいる	測定	15 m <sup>2</sup>	kg	0.1	0.1
精玄米重	・屑米を除いた玄米重、含水率は15% 屑米とは粒厚1.7mm未満のもの、通常1.8mmを用いている	測定	15 m <sup>2</sup>	kg	0.1	0.1
籾わら比	・精籾重／わら重	算出	—	—	0.1	0.1
玄米 千粒重	・25g粒数3回以上から換算、または500粒重、3回以上から、精籾もこれに準ずる	測定	—	g	0.1	0.1
籾摺歩合	・玄米重／精籾重×100	算出	—	%	0.1	0.1
粒着の 疎密	・普通には肉眼鑑定による ・疎 穂長10cmあたり粒数 45以下 中       "                   46～60 密       "                   61～75 最密     "                   76以上	観察  測定	—	粒	1	1

調査項目	調査基準および要領	調査方法	調査数	測定単位	調査単位	
玄米の 大小	<ul style="list-style-type: none"> <li>・極小：長さ×幅が 14.0 mm 2 以下 (千粒重 19.5 g 以下)</li> <li>小： " 14.1~15.5 ( " 22.5 g 位)</li> <li>中： " 15.6~17.4 ( " 24.5 g 位)</li> <li>大： " 17.5~20.0 ( " 27.0 g 位)</li> <li>極大： " 20.1 以上 ( " 27.0 g 以上)</li> </ul>	測定	100 粒 程度	—	—	—
玄米の 形状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・極円：長さ／幅が 1.40 以下</li> <li>円： " 1.41~1.59</li> <li>中： " 1.60~1.79</li> <li>長： " 1.80~2.00</li> <li>極長： " 2.01 以上</li> <li>・調査方法は玄米の大小に準ずる</li> </ul>	測定	100 粒 程度	—	—	—
玄米水分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・105℃24 時間法を原則とする</li> <li>・Kett 水分計を用いる場合は試料の一部について 105℃法をも併用し、その測定値より補正を行う</li> </ul>	測定	20 g 2 回	%	0.1	0.1

[水分換算の方法]

水分含量 (F%) の玄米重を 15% に換算した場合

水分 15% 換算 10 a あたり玄米重 (kg) = 10 a あたり玄米重 (水分含量 F%) × (100 - F) / (100 - 15)